



Vol.

37

さと
やすらぎの郷



毎日、絶え間なく明るい笑い声が聞こえるデイサービスセンター。
そんな明るい一日を利用者の方々に提供している職員たちを紹介します。

今 年、開設20年を迎えるやすらぎの郷デイサービスセンターでは、開設当初から勤務している職員を含め、勤務年数が長く、経験豊富で確かな技術を身に付けたベテラン職員が揃っています。明るさと元気さも、若い職員には負けません！



芸 達者な職員。レクリエーションや四季折々の行事では、演歌歌手のモノマネや踊りを披露することも。また、巧みな話術をもつ職員は行事の司会進行を務め、さらに会場を盛り上げます。



笑い声あふれる一日、
やすらぐ空間。

デイサービスセンター

男 性職員の数が全職員13名のうち5名。これは当デイサービスの特徴のひとつです。体が大きい利用者の方々の介護もスムーズにこなします。



話 をしっかりと聞き、ご利用者の気持ちに寄り添うこと。これをどの職員も大切にしています。ご利用者の中には利用開始当初、デイサービスへ来ることを嫌がり、帰宅願望を訴えていた方が、だんだんと笑顔が増え、今では「ここに来ることが生きがいです。」と喜んでくださる方もいます。時間がかかってもその方と根気よく向き合い、デイサービスで楽しいひとときを過ごしていただけるよう努めています。



わたしと介護

～想いはあなたと共に～



介護職員 小金丸

井上 俊子様

14歳年上の姉(山本千枝子様)が平成20年から特養に入所中。山本様をご入所されるまで、在宅で介護をされていました。そんな井上さんに、入所するまでのエピソードをお聞きました。

優しく器用な、自慢の姉でした

姉は四国の松山で生まれました。6人兄弟の長女です。厳しいところもありますが優しく、器用で料理も縫い物も上手。カーディガンを編んでくれたりと、自慢の姉でした。16歳から醤油製造会社で働き始め、長年働いたので、職場の方とは親戚のような関係でした。母が亡くなってからは、姉が母親のようによくしてくれました。もしかしたら、11年間ずっと母親の介護をしていた私に申し訳ない気持ちがあったのかもしれない。

普段と何か違う様子に気づきました

平成14年に姉の夫が他界し、その一周忌の頃から姉に認知症の症状が出始めました。法事の時に何かおかしいと私は感じました。他の人は、「普通に話してるじゃないか」と言いましたが、私は頻繁に会っていたので普段と何か違うと感じました。

毎年姉妹3人で行ってた旅行も平成17年10月が最後でした。その旅行中もおかしな言動がいくつかありま

した。タクシーの中で話をしていたら、突然姉が「あんたたち、何を言いよるとね!私の文句を言いよろうが!」と自分の悪口を言われてると言い出したのです。旅行後に病院に行ったほうがいだろうと思い、受診させました。



平成17年10月旅行時の千枝子さん

何度心臓が止まる思いをしたかわかりません

処方された薬を最初は飲んでいましたが、「私はどこも悪くない。こんなに元気だから。」と、薬を飲まなくなりました。その頃から人格が変わったみたいでした。顔つきも変わってきました。

ホームヘルプサービスを利用しましたが、姉はヘルパーさんが来ても家に上げませんでした。私は当時勤めていた会社を辞め、ヘルパーさんに付き添って姉の家に行っていました。

徘徊もひどくなりました。何度心臓が止まる思いをしたか分かりません。一度、後を付いて行ってみると、どうやら長年働いていた醤油会社へ向かっているようでした。家にいないときは探しに行き、隣町で見つけたりしました。声をかけると、「私は行かないといけない」とやはり仕事に行っているつもりのようなようでした。

姉の誕生日の夜のことで。私が姉を寝かせて自宅に帰った後、起きて外に出たようです。警察署の方から「交通事故で病院に入院されてます。詳しいことは署に行ってください」と言われました。徘徊があるので洋服やバッグに名前と連絡先を書いていました。骨折していましたが、あまりひどくなくてよかったです。

性格も穏やかになっていきました

入所時は男性が苦手、女性職員に対応してもらえないといけませんでした。しばらくすると男性にも慣れて、性格も穏やかになっていきました。しばらく食事を食べなくなった時期には私が介助に来ていました。おかきと一緒に食事を食べたらしっかりと嘔んで飲み込むと

いうことを介護職員の方が発見し、それを半年ほど続けたら食べるようになりました。管理栄養士の方にもいろいろ試行錯誤してもらい、本当に感謝しています。

入所前を振り返って

入所前は先が見えず、このままどうなるだろうという気持ちでした。姉を寝かせてから自宅に帰っても、また朝早くから家に行くので睡眠時間が取れませんでした。家での入浴介助も大変でした。無理心中しようかと考えたこともあり、鬱気味になっていたのだと思います。入所になって精神的にも体力的にも楽になりました。今でも、入所時にお世話になった相談員の方の顔を見ると、当時を思い出して涙が出てきます。

そして、これから…

姉に、私が妹だということを忘れられたくありません。現在1週間に2日は面会に来るようにしています。父は早く亡くなり母は病気がちだったので、姉妹の絆が強いです。また、今後は施設のためにも役に立ちたいと思っています。恩返しをしたいのです。

インタビューを終えて

井上さんは長年お母様の介護をされた後に山本さんの介護もされており、苦労も多かったことと思いますが、その懸命さには本当に頭が下がります。お話を聞きながら、介護に対する真摯な姿勢がひしひしと伝わってきました。

施設へ預けるということは、介護者にとって負担が限界を超えた場合の手段のひとつと考えられていますが、入所後も家族であることは変わらないということを改めて教えていただいた気がします。（介護職員 小金丸）



写真を見せながら思い出を語る井上さん

鬼はそと! 福はうち!

2月上旬、特養とデイサービスで節分の豆まきが行われました。



東棟

職員が作った大きな赤鬼・青鬼の的をめがけて、丸めた新聞紙を思いっきり…えいっ! 時々目の前まで迫る鬼に皆さん目を丸くしながら、力いっぱい投げていました。皆さんの力強い豆まきと笑い声で邪気を追い払いました!

西棟

鬼に扮した職員が現れ、入所者の方々を驚かせます。豆にみたてたお手玉を手に持ち、いざ鬼退治! 鬼を退治した後は、恵方巻き、ではなくロールケーキをみなさんと協力して作りました。当施設の調理師にアドバイスを受けながら、美味しそうなお手玉ロールケーキが出来上がりました。

デイサービス

鬼に扮した職員が登場するなり、みなさん大きな声で「鬼はそと〜! 福はうち〜!」と新聞紙で作った豆を勢いよく投げる! 投げる! あまりの攻撃に鬼は力尽き、退散しました。



ケアハウスの暮らし

ケアハウスやすらぎの郷は、入居定員20名のアットホームな雰囲気が特徴のケアハウスです。安心してより充実した明るい生活を送っていただけるように、栄養バランスのとれたお食事の提供、外出レクリエーション等に力を入れています。介護認定を持っている方は、入居しながら、訪問ヘルパーやデイサービスなどの介護保険サービスもご利用できます。

お部屋

個室と二人部屋があり、全室南向きです。IHコンロのミニキッチンも付いており、趣味のお料理を楽しまれている方もいます。



職員と入居者皆さんが協力し、楽しく過ごしています。



設備

食堂やお風呂、中庭の他に、リハビリ道具やコインランドリーを設備しています。特にお風呂場からの景色はとても見晴らしがよく、気分よくゆっくり入浴することができます。



お風呂からの眺め



食堂



コインランドリー

レクリエーション



季節に合わせた行事や外出を盛んに行っています。また、毎週水曜日には、職員が近隣のスーパーまで送迎を行っているため、一人での外出に不安がある方も安心して買い物に行くことができます。

ご入居に興味ございましたら、お気軽にお問い合わせください。電話 092-936-2105 ケアハウス生活相談員：渡邊

ありがとう私たちの ボランティアさん

ボランティアを始めたきっかけを教えてください。

働いている時から骨髄バンク等のボランティアをしていました。退職後、歌を習い始めましたが、せつかくなら歌でボランティアが出来ないかと思い、始めたのがきっかけです。

ボランティア活動を通じて得たものはありますか。

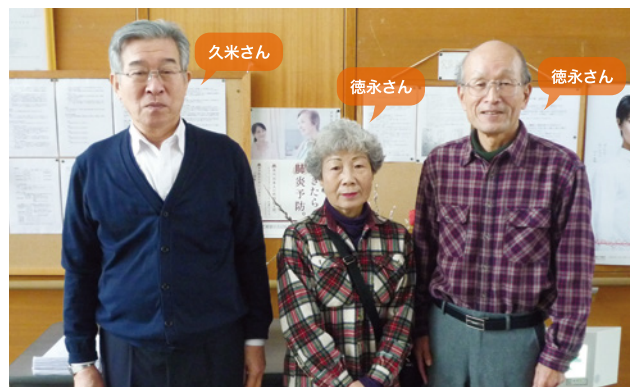
喜んでもらっているのを見て、自分自身が元気をもらっています。

ボランティア活動の魅力をお教えてください。

ボランティアをしていると社会と繋がっていると思えるし、自分でも人の役にたっているとう喜びを感じることが出来ます。また、声が出なかった人が歌うようになったり、身体が動かなかった人がリズムを取ってくれるようになったりと、そういったのを見るとこちらも嬉しくなります。

今後も続けて行きたいですか

自分の身体が元気なうちは続けていきたいと思っています。



歌楽歌楽合唱団 活動開始:平成26年4月 活動内容:合唱



歌楽歌楽合唱団さんは毎月1回、西棟、東棟、デイサービスを順番に回り、利用者の方々に合唱を教えてくださいます。先生方が利用者の方々の表情をよく見ながら、困っているときには優しく丁寧に教えてくださいますため、皆さん安心して参加しています。毎月の楽しみの一つとなっているようです。これからもどうぞよろしくお願ひします。

平成27年度 やすらぎの郷施設内研修実績

やすらぎの郷では、職員の資質向上はもちろんのこと、利用者の方々が安心して快適に生活ができるよう定期的に施設内研修を実施しています。今年度は以下の研修を行いました。

	研修内容	講師
4月	口腔ケアについて ～誤嚥性肺炎の予防で大切な口腔ケア～	蓮田歯科医院
5月	事例検討	安達係長
6月	感染症及び食中毒について	藤野課長、更谷管理栄養士
7月	救急法	松本指導員
8月	腰痛予防について	介護労働安定センター
9月	権利擁護について	篠木弁護士
10月	褥瘡について	褥瘡委員会
11月	感染症について ～吐物処理の仕方～	藤野課長、田邊介護長、竹中介護長
1月	リスクマネジメント～KYTトレーニング～	廣田生活相談係長
3月	虐待防止について	//



7月 救急法



11月 感染症について～吐物処理の仕方～

来年度も施設内研修を通じ、技術及びサービスの更なる向上に努めて参ります。

車イスをご寄贈いただきました

1月19日、志免町商工会青年部様より車椅子2台をご寄贈いただきました。

大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



日本赤十字社福岡県支部
特別養護老人ホーム

やすらぎの郷

〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

平成28年3月発行